

(道徳科)

自他の関わりを通して、自己の生き方について考えを深める道徳をめざして  
～「考える道徳」、「議論する道徳」の指導を通して～

大阪市立北中道小学校 研究部

## 1 主題設定の理由

本校では平成30年度からの完全実施に向けて、平成29年度から道徳科の研究に取り組んできた。研究1年目は、道徳の授業を充実させることを目標とし、基礎的理解を深め、各教科との関連をもたせた指導や児童の実態に応じた特色のある取り組みを進めた。2年目となる平成30年度は1年目の課題から、自分とは異なる意見をもつ他者と議論することを通して、道徳的価値を多面的・多角的に考えることや、多面的・多角的な思考を通じて、道徳的価値の自我関与を深めることが重要と考えた。そこで、研究主題を「自他の関わりを通して、自己の生き方について考えを深める道徳をめざして」と設定し、副主題を「『考える道徳』、『議論する道徳』の指導を通して」とした。そして、新学習指導要領の内容の中から、特に「多面的・多角的に考えること」と「考え、議論する」に着目し、授業の中で道徳的価値について、意見を交流したり考えを深めたりする場面を意図的・計画的に設けることとした。

## 2 平成29年度研究の概要

### (1)道徳的価値の理解

「価値理解」と「人間理解」と「他者理解」という3つの理解を通して道徳的価値そのものを理解させることをねらった。つまり、授業では価値そのものの大切さを理解させる「価値理解」を重視しがちであるが「この価値は大切だけれど、実際にそれに基づいて行動することは難しい」と、人間の弱さそのものを理解する「人間理解」も大切にしたい授業づくりを行った。さらに「一人一人違った感じ方や考え方をするため、自分が大切だと感じることをさほど大切に感じない人や、反対に、自分以上にその価値に重きを置く人もおり、そのため価値の実現がより難しくなることもあるのだ」と、人間の多様性を考えさせる「他者理解」を深めていくことも大切であると考えた。

### (2)自分とのかかわりで道徳的価値をとらえさせる

指導者が分かりきったことを尋ねる授業、一方的に価値について説明する授業からの脱却が必要であると考えた。また、指導者がどんな答えを求めているか探ろうと、児童がその表情を見ている授業や、資料の中に答えを探り、児童が下を向いて教科書をじっと読んでいる授業に陥らない工夫も大切にしたい。指導者や教科書の中には答えが見つからないことに気づき、見つからないからこそ「自分ならどう考え、どう行動するか」と児童が置き換えて考えるような工夫を講じた。さらに、友達と話し合わせる活動も適宜、取り入れた。そうすることにより、自分ならではの考え方の傾向に気付くことにもつながり、自己理解も深めることができた。

### (3)道徳的価値を自分なりに発展させる

自分とのかかわりで道徳的価値をとらえた後は、児童に現在の自分自身の行為、感じ方、考え方を振り返らせるような発問をするようにした。そうすることで自分の考え方や生き方を深め、実践意欲につなげることをねらった。

## 3 平成30年度研究の概要

### (1)基礎研究

#### ①他者と関わり合う

他者と関わる最も直接的な方法は考えを伝え合うことである。そして、他者と考えを伝え合うためには、自分の考えをのびのびと表現できる雰囲気が必要である。そのためには全教育活動の中で、指導者と児童、また児童相互の信頼関係の構築が重要となる。その上で授業においては、教材を通して、児童が多様な考えを表現したり、聞いたりする等の交流を通して、指導者がねらいとしている道徳的価値の理解を児童に深めさせることを大切にしたい。

## ②自己の生き方について考えを深める

伝え合う中で深めた道徳的価値に対して児童がそれを自分のこととして受け止め、自分の経験に照らし合わせて考え方や感じ方を考えることができるような発問を吟味し、児童の考える時間を十分に確保した。そうすることで自分の経験を想起し、見つけた課題に対してどう対処すべきかを考えたり、自己の願いを実現しようとしたりする児童が育つと考えた。このような指導を積み重ねていくことで、将来、様々な問題に直面した際に、一人一人が多面的・多角的に考え、どうすればよいかを判断し、適切に行動するための資質・能力を養うことをねらいとした。

## ③道徳科における「考える」

小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編（平成27年7月）を基に、道徳の時間におけるめざす児童の姿を「道徳的価値に気づき、知り、深めている姿」「登場人物の心情を自分に照らして考えている姿」「道徳的価値に対して自分自身の経験を振り返っている姿」「道徳的価値に関する他者の意見を聞き、多様な考えの中で、自分の考えを再考している姿」とし、これらを実現する活動を通して、児童は自己の生き方について考えを深めることができると捉えた。そのために、資料提示、発問の精選、ワークシートの活用、話し合いの場の設定などを充実させていった。

## ④道徳科における「議論する」

児童が自己の生き方について考えを深めるためには、自分一人の経験のみを振り返るだけでなく、自分とは異なる経験、異なる価値観をもっている人と話し合うことを通して、広い視野で物事を考えられるようにすることが必要である。そのため、児童相互がお互いの存在を認め、尊重し、意見を交流し合う学習活動を構築した。

## ⑤「多面的・多角的」に考える

「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うためには、児童が多様な考え方・感じ方に接すること」が肝要である。そのために「読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習」「問題解決的な学習」「道徳的行為に関する体験的学習」を取り入れることで、児童が自ら道徳的価値の理解を基に自己を見つめ、広い視野から多面的・多角的に考え、主体的に学習に取り組むことができるようにした。

## (2)研究主題へのアプローチ

研究主題に迫る具体的なアプローチの方法として「①実態把握と活用」「②教材研究」「③ねらいの焦点化」「④考えを深める工夫」「⑤議論させる工夫」をあげ、児童の実態、教材の内容に応じて選択し、適宜、実践できるように共通理解を図った。

# 4 研究の成果と課題

## (1)成果

- 児童が「自分ならどうするか」という自我関与の観点から道徳的価値と向き合うことができた。
- 児童が自分とは異なる意見をもつ他者と議論することを通して、多面的・多角的に考えることができ、ねらいとする道徳的価値を深く認識することにつながった。

## (2)課題

- 児童の発言の取りあげ方について、その考えを広げたり、深めたりするための有効な補助発問のあり方を今後、検討していく。
- 道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、温めたりして、授業後の実践につなぐ終末のあり方について検討していく。
- 児童にとっては、自らの成長を実感し、道徳性の向上につながっていくものとなり、指導者にとっては、目標や計画、指導方法の改善・充実に取り組むための資料とすることができるような 評価のあり方について検討していく。